

眼科 臨床研修プログラム

1) 到達目標

眼および眼付属器に対する広い見識を持った眼科医を目指す。

2) 基本方針

研修期間により習得目標が異なる。

～1ヶ月： 眼科診療に対する理解+ α 。

～6ヶ月： 外来診療が行える。顕微鏡下で簡単な縫合処置が行える。

1年以上： 白内障手術・レーザー治療を含めた総合的な眼科診療を習得する。

3) 研修内容

1 自覚所見の取得

眼は感覚器であり、その機能評価には視力・視野・立体視などの自覚所見を数値化して用いている。視機能の質を表すそれら数値の意味を十分に理解して欲しい。

2 他覚所見の取得

眼の他覚検査には、細隙灯や倒像鏡など様々な器機が必要である。それらの器械の原理や構造を十分理解した上で、扱い方を習得して欲しい。

3 学問的探究心を養う

思い通りの治療成果が上がらない場合に、どうすればよいかを常に考えるようになって欲しい。9時から5時まで Duty Work に追われるのではなく、考えながら行動できるよう少し余裕を持たせたカリキュラムを構築している。

4 人間性を高める

日常診療において上司・同僚・他科の医師・看護師・視能訓練士などと協調して働ける、温かい人間性を持ち合わせた医師になって欲しい。『あの先生に診てもらってよかった』『あの先生と一緒に働けてよかった』と思われる様な眼科医になって欲しい。

5 技術の向上

検査・手術・レーザーなどの基本手技の獲得を目指す。ほとんどすべてが顕微鏡下の作業であり、まずマイクロサージャリーの基礎として切開と縫合を習得して欲しい。

4) 教育体制

基本的に指導医とともに、外来診療・病棟回診・手術をする。また学会やセミナーにも積極的に参加し、デジタルプレゼンテーションの基礎を習得する。

5) 指導体制

部長 西崎雅也(平成7年・北海道大学卒)(日本眼科学会専門医)

医長 郡田ひな子(平成14年・東邦大学卒)(日本眼科学会専門医)

認定施設

日本眼科学会認定専門医研修施設

なお当科は、神戸大学医学部眼科学教室(根木昭教授)の関連病院として、診療に当たっており、希望があれば神戸大学での研修も斡旋可能である。